



オートクチュールの鍛造ブラックレーベル“CONQUEST”はエッジの立った10本のスポーク。ユーザーのオーダーに応じて、このようなカラーリングにも対応する。



ユーザー自身の作。アルミ加工の高い技術力がにじみ出た造形で、あとは周囲の樹脂パネルの仕上げ加工を待つ。



ブルーの部分に手を入れてエンブレムも白とシルバーに。アピアランスのツートーンは徹底している。



ラジエターグリルのほか、エアインレットのメッシュ部をシルバーに塗装。シャープさが際立つ。



X6 [AUTO COUTURE]

オートクチュール

ダウンサスと22インチホイールが醸し出すクールなカタチ
爽快、新鮮クーペスタイル
 発売間もないX6を足腰まわりでライトチューン
 ユーザー自身のコーディネートでボディはツートーンに徹底
 「X6はこうあるべき」とカスタムシーンの先駆けとなるか!?

ノーマルのX6とは別のクルマに見えるほど新鮮なスタイリング。ポツリとした印象がないのは、やはり細身スポークの22インチホイールのおかげだろう。



PARTS LIST		
AUTOCOUTURE CONQUEST		
F-11.5J/R-13J	317,100円/323,400円/1本	
PIRELLI SCORPION ZERO		
F-295/30ZR22/R-335/25ZR22	オープン価格	

[AUTO COUTURE]

オートクチュールインターナショナル
 TEL.03-3723-9000
<http://www.auto-couture.com>

に精通したユーザーの手によるもの。軽量なアルミニウムを叩き出して袋状にし、X6のルーフラインを参考に造形された。

それにしてもこのたまたま、さながらM6クーペの4ドアバージョンか?と目を疑うほど完成度の高いクーペスタイルではないだろうか? ロードダウン量はホイールアーチとタイヤの隙間が全周にわたってできるだけ均一となるようにアジャスト。コンクエスタの細め10本スポークが軽快感に拍車をかけているのが好バランス。ユーザー自身によるカスタムだけに、オリジナルの良いところが残されているのもクリーンでシックだ。今後はさらに手が入る予定で、走りを楽しめる高性能サスペンションにアレンジされていくという。

X6のカスタム指標となるひとつのお手本スタイリング

BMWによると、X6はUVでなく“SAC”すなわち“スポーツ・アクティビティ・クーペ”。ただし、その言葉に説得力が帯びるのは、このようなカスタマイズがなされてからかもしれない。高めの股下高、せいぜい扁平率50%前後の純正タイヤがある意味セオリーとなっているクロソオーバーSUVにあって、これほどロードダウンが似合うクルマがX6のほかにあるだろうか? X6にとってこのスタイリングは、生まれるべくして生まれた自然の摂理とも受け取れる。

カスタムはタイヤとホイールのコーディネート、エクステリアのディテール加工、そしてワンオフパーツの製作に至るまで、ユーザー本人の手による仕事だというから驚きだ。足元はオートクチュールのコンクエスタがリムとスポークの溝をボディ同色とするホワイトに塗り分けられ、ラジエターグリルをはじめマスクのエアインレットメッシュ部は、逆にコンクエスタのスポークに合わせてシルバーペイントされているといった手の込みよう。

ちょっと見慣れないマフラーエンドは、特殊金属加工